

下野市立吉田西小学校



1 学校課題

主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成
 ～基本的表現を身に付ける授業の創造と語彙力の育成を通して～

2 研究計画

(1) 課題設定理由

本校では、昨年度、市の「小中一貫教育推進研究学校指定事業」を受け、「しもつけ未来学習」を基盤とした外国語活動の時間を使って、英語学習を中心としたコミュニケーション能力の育成を目的として研究を進めてきた。特に、「アイコンタクト」と「リアクション」を重点課題とした。リアクションの仕方を学ぶことにより、コミュニケーションへの苦手意識が少なくなり、会話をしようとする児童が増えた。しかし、自分の考えや思いを主体的に伝え合おうとするまでには至っていないという課題が残った。

そこで、今年度は、外国語活動や外国語科において、英語でリアクションをしながらコミュニケーションが図れるようにすることはもちろんのこと、国語科において、基本的な表現力、話合いの仕方を身に付けられるよう工夫することで、主体的に自分の考えや思いを表現できる児童を育成しようと考えた。

(2) 研究の仮説

児童が「やってみたい」と思えるような学習課題や活動を数多く設定し、ペア活動やグループ活動の活性化を図る中で、基本的表現（話し方、聞き方、話合いの仕方）を身に付けたとき、主体的に表現し、伝え合う力を高めることができるのではないか。

(3) めざす児童像（身に付けさせたい力）

既知の学習内容を活用し、表現力豊かに伝え合う子ども		
低学年	中学年	高学年
○言葉ではなく、文で話せる子 ○思いや考えのわけ（根拠）が言える子	○大事なことをゆっくり相手を見て話せる子 ○共通点や相違点を見つけながら話せる子	○表現力豊かにコミュニケーションできる子 ○論理的に筋道を立てて話せる子

3 研究内容

(1) 研究授業を通しての課題への取組

期日	学年	教科・単元名	授業の工夫・手だて	成果・課題
6 / 15	3年	外国語活動 Unit3 How many 「How many ?」	児童の学習意欲を引き出したり、語彙量を増やしたりするために、児童が興味を持てるようなゲームやクイズを取り入れた。	○担任がコミュニケーションの手本となり、安心感のある雰囲気作りができた。 △自分の考えをまとめ、伝える活動へとつながるので、自分と関わりのある言語活動を設定するとよい。

9 / 28	5年	外国語活動 Lesson5 I can run fast.	Small talk やデモンストレーションで HRT と ALT の家族を紹介し、児童が内容や表現を工夫しやすいようにした。	○授業の中に、ALT と HRT、HRT と児童のような、いろいろなやり取りがあった。 ○Activity が 2 回あり、中間のまとめで一度振り返りができた。 △中間の振り返りを次の活動につなげられる手立てがあるとよい。
11 / 18	6年	外国語活動 Lesson7 My Best Memory	Small talk を毎時間設定し、既習表現を活用することで、主体的にコミュニケーションを図ろうとすることができた。ビデオを使っての振り返りをした。	○ビデオを使って振り返りをすることで、自分の良いところや改善点が明確になって、次の活動につなげることができた。 △Small talk では、児童の発話を促すために、発問、問い掛けを積極的に行い、自然な会話を目指す。

(2) 基礎的な語彙や表現方法の定着

各学年で児童の実態に合った具体策を考え、実践した。

- ①国語科の授業や「まなびタイム（10分間の学習時間）」での語彙力向上の学習（全学年）
- ②朝の会・帰りの会での発表の練習の実施（1年生）
 - ・話し方、聞き方の基本が身に付いてきた。
- ③「コミュニケーションタイム」（やり取りをする時間）の実施（2、3、5年生）
 - ・日本語や英語でやり取りする時間を国語科や外国語科の授業に設けたことで、反応(リアクション)や質問が上手にできるようになってきた。
- ④「ノー原稿発表」の充実（4、6年生）
 - （学年に応じた達成目標を決めて実施）
 - ・相手に伝えるためにどのように発表するとよいかを理解することができた。伝わるような発表の仕方になってきている。



4 本年度の成果と課題

(1) 成果



○興味・関心や必要感のある学習課題を設定したことで、児童の活動意欲（話したい）が高まった。また、イングリッシュタイム（朝の会に行っている英語でのやり取り）やSmalltalkなど英語に触れる機会を増やすことで、苦手意識が低くなり、安心して会話をするようになってきている。

○国語科やノー原稿発表で、話し方のスキルが身に付き、英語でのコミュニケーションに生かすことができた。

(2) 課題

○「まなびタイム（10分間の学習時間）」において、言葉遊びや語彙・文法のプリントなどの学習をして語彙力向上に努めたが、十分とはない。コミュニケーション能力を向上させ、豊かにするためには、さらに語彙力（言葉や単語を知っている）向上の指導が必要といえる。